

# 電子ジャーナル利用状況

## 電子ジャーナルの利用促進と利用状況

森 谷 優理子

**Key words** : ポータルサイト、利用統計、PubMed、医中誌Web、文献入手

### I. はじめに

当院では、2007年より日赤電子医学資料共同購入に参加し、電子ジャーナルの本格的な導入を開始した。それ以前は、購読雑誌の無料電子ジャーナルのみで、わずか50誌だったが、2009年8月現在の利用可能電子ジャーナル数は、洋雑誌約1500誌、和雑誌約600誌となり飛躍的に増加した。電子ジャーナルの契約形態には様々なものがあり、当初は図書館のポータルサイトも無い状況であったため、どのくらいの利用があるか心配されていた。そこで、当図書館では利用促進のために様々な工夫を行い、実際の利用状況を把握するため、電子ジャーナルの利用統計を収集した。本稿では、利用促進のために行った事例と利用状況を報告する。

### II. 利用促進の事例

#### 1. リンク設定と利用法案内

##### (1) リンク設定

データベース（「メディカルオンラン」、「MDConsult」 「MEDLINE with Full Text」 「LWW Fixed.10」）を導入したものの、文献検索で見つけた文献を入手する際、電子ジャーナル、所蔵する冊子体など、一次文献の

種類によって、検索ツールを使い分ける必要がある。利用者は、それぞれの検索方法に慣れる必要があるだけでなく、どのデータベースで検索するのかわかりづらい上、データベース毎に検索する手間が増えるなどの問題点があった。これを解決するため、PubMedのLinkOut機能を利用して、当院の所蔵アイコンと電子ジャーナルによる閲覧可能な文献にアイコンを表示させた。これにより、PubMedの検索結果から所蔵の有無がわかるとともに、アイコンをクリックするだけで本文が閲覧可能となった。また、医中誌では、所蔵リストの登録をして文献に所蔵のアイコンと、外部リンクの設定を利用してメディカルオンラインのフルテキストリンクのアイコン表示登録を行って利用の向上を図った。

##### (2) 利用法案内

文献入手には様々な方法があるが、誰でも

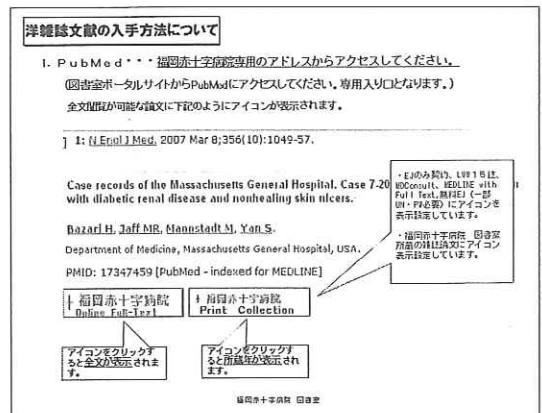


図1 文献入手方法

MORIYA Yuriko

福岡赤十字病院 図書館

library@fukuoka-med.jrc.or.jp

簡単に文献までたどり着けるように、和・洋雑誌それぞれの「文献入手方法」を作成し(図1)、図書室だよりと一緒に各部署へ配付した。また、図書室にも検索用パソコンの前に「文献入手方法」を置き、自由に持ち帰り出来るようにした。しかし、部署毎に配付しても、回覧されないと『知らない』こととなるので、2008年からは毎年4月に、各部署医師個人宛てに「図書室利用案内」と「文献入手方法」を配付(約200部)するようにした。

(3) 利用状況

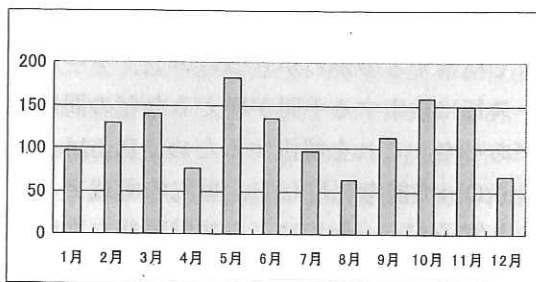


図2 2008年PubMed全文閲覧数(月別)

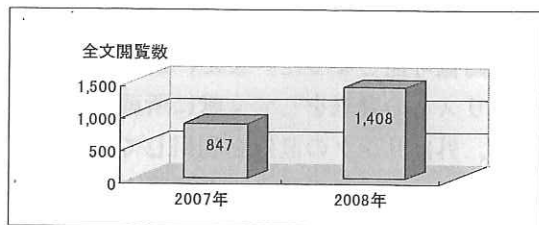


図3 PubMedから全文閲覧数の推移

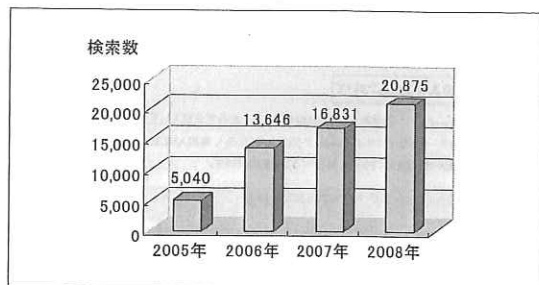


図4 医中誌WEB検索数の推移

PubMedのLinkOutを利用統計から、文献の全文を閲覧した件数を収集した(図2)の統計より、利用案内を配付した4月以降に利用が増加していることがわかる。年一度、4

月に利用案内を直接配付することにより、新任職員に対しての利用案内ができ、それ以外の職員へは、今年度の利用方法変更のお知らせができる。この方法を導入後の利用統計では、閲覧検索数が年々増加していることから(図3・図4)、利用促進に有効な方法であると考えられる。

2. 図書室ポータルサイト

2007年4月より、赤十字本社共同購入の参加病院向けに提供された「図書室ポータルサイト」を活用している。同一画面で各データベース、利用可能雑誌タイトルへ直接アクセスでき、大変便利である。2009年の最新版では、掲示板も利用できるようになっている。

また、ポータルサイトのデータベース毎の説明を、当院オリジナルに変更し、画面で利用方法を簡単に説明している。同時に、簡単なポータルサイトマニュアルを作成し、毎年4月にその他の利用案内と一緒に配付している(図5)。



図5 ポータルサイトマニュアル

今後、ポータルサイトを病院HPへリンクし、よりアクセス環境を良好にするよう申請中である。

(1) 利用状況

2009年3月より日赤電子医学図書館が開設され、より充実したポータルサイトとなった

ものの、アドレスの変更のため利用者数の減少が懸念された。しかし、その後の利用状況(図6)では、利用マニュアルの配付効果で、閲覧数は順調に伸びていることがわかった。

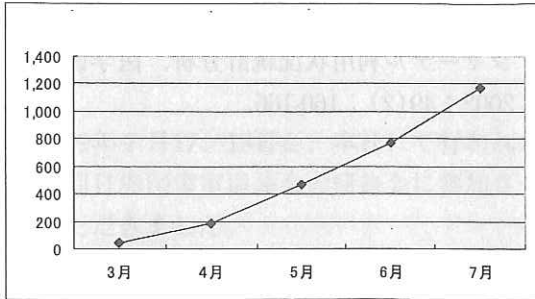


図6 2009年ポータルサイト閲覧数(月別)

### Ⅲ. 電子ジャーナルの利用統計

利用者はPubMed・医中誌等の文献検索データベースを介し、フルテキスト付きデータベースを利用して文献を入手する。そこで、どのデータベースからのダウンロード数が多いのかについて当図書室では導入年から利用統計を取り、検討し、将来の継続・変更の参考資料としている。メディカルオンラインは和文献の入手が可能で、特にコメディカルの利用が多く、2008年は月平均500件以上のダウンロード数があり、前年より倍近く増えていた(図7)。他2つのデータベースも、メディカルオンラインほどではないが2007年より利用が増加しており(図8・図9)、しばらくは、これらデータベースを継続利用する方針である。

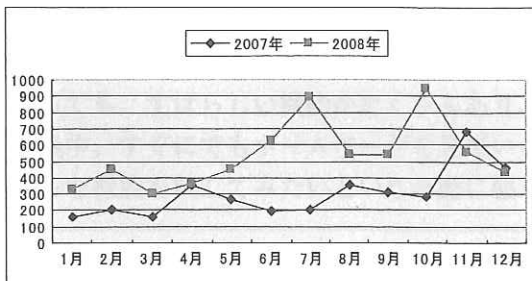


図7 メディカルオンラインダウンロード数

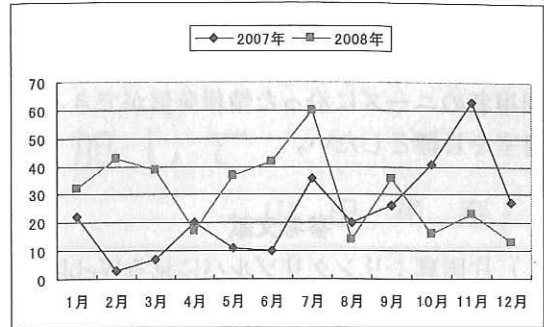


図8 MEDLINEwith FTダウンロード数

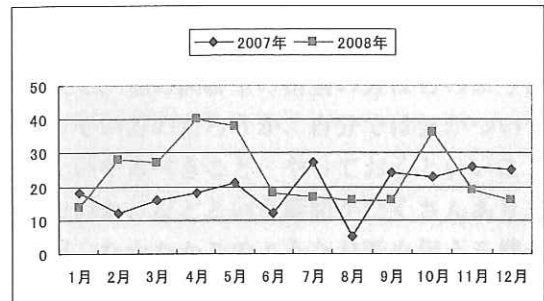


図9 MDCConsultダウンロード数

### Ⅳ. まとめ

電子ジャーナルの導入後、いかに利用者を増やすか、利用案内をどのようにすれば周知徹底ができるのか課題であったが、電子ジャーナルの利用促進では、本社から提供されたポータルサイトの利用が大いに役立った。他にも自分で出来ない、わからない事は、研修会や日赤図書館雑誌の事例報告を参考にしたり、他病院担当者に相談したりして、当院で活用できることを取り入れている。一方、どのように利用者に「利用できる」ことを伝えるかについては、「繰り返し案内をする」というのが正解ではないかと考えている。Web上で利用できる情報の多様化が進む中、文献を検索し、発見し、入手するまでを、いかに効率よく利用者に提供できるかが、利用者の最も必要としていることである。このことは、図書館の5原則の一つである『利用者の時間を節約する』ことに繋がる大切な業務であると信じている。

これから、リンクリゾルバ機能や医学情報サイトの案内など行っていき、よりいっそう利用者のニーズに沿った情報発信ができる図書室を目標としたい。

#### 参考文献

- 1) 片岡真：リンクリゾルバに見るWeb時代の図書館サービス。薬学図書館 2006 ; 51 (4) : 299-306.
- 2) 小林晴子、坪内政義：電子ジャーナルが図書館サービスに与える影響。医学図書館 2003 ; 50(3) : 218-215.
- 3) 平吹佳世子：慶應義塾大学における電子ジャーナル利用状況統計分析。医学図書館 2002 ; 49(2) : 160-166.